

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
I 教育	1. 学修者本位の教育の実現	①教学マネジメント事項の実効性を高めるため、内部質保証体制に関わる組織の位置づけを明確にする	・内部質保証体制における教学マネジメント委員会の位置づけと現状の課題について検討中。
		②学修ポートフォリオを有効活用するため、正課に関する仕組みの試行と正課外に関する検討	<p>・学修ポートフォリオの入力者数は前期1,112人、後期327人で、年間を通して1,254人であった。記入率は全体で19.9%、1年次生は37.5%（5/1現在の休学者を除く在籍者数に対する割合）であった。</p> <p>・出力ツールが次年度納品予定のため、入力内容の分析には至らなかった。有効に活用できる仕組みを構築するため、引き続き分析を行う。</p>
		③次期カリキュラム改正に向けて、現カリキュラムの検証と学修者本位の教育についての全学的な理解を深める	<p>・教学マネジメント委員会に機関レベルのアセスメントチェックリストに関係するデータ提供（報告）を行った。また、授業アンケート結果の検証等を行った。</p> <p>・授業の満足度に関する設問において、全学の前期平均4.31/5点、後期平均4.36/5点で、満足できると回答した割合は前期82.7%（そう思う64.6%、ややそう思う18.1%の合計）、後期84.7%（そう思う66.9%、ややそう思う17.8%の合計）であった。</p> <p>・学部等において、FD研修会等でカリキュラムの検証を行った。</p>
		④専門的職業人、知識基盤社会を支える研究者または高度専門職業人の輩出人数のため、各研究科・専攻の3つのポリシーとカリキュラムとの整合性を検証	<p>・4研究科が3つのポリシーとカリキュラムとの整合性を検証した。</p> <p>・整合性に関する評価スコア平均25点であった。（27点満点）</p>
		⑤包摂的な学生支援の仕組み構築に向けて、「機構」における学習支援の準備及び生活支援・活動支援の課題の抽出をふまえた窓口ワンストップ化の有効性の検討	<p>・「機構」及び新教学センターの体制について機構設立準備委員会で検討を行い報告書の提出があったが、設立には至っていない。</p> <p>・各部局において窓口ワンストップで提供可能なサービスを検討し、複数の案がある。</p>

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
I 教育	1. 学修者本位の教育の実現	⑥学修者本位のカリキュラムによる成長可能性を念頭に おいた選抜方法の改革のため、年内入試の現状分析 と課題の抽出及び他大学等情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状分析を行った。また、複数件（面接官間における基準、要領通りの実施の徹底、問題チェック体制、公募併願の学力外の評価方法、膨大な面接・採点時間等）の課題を抽出した。</li> <li>・約20大学の情報収集を行った。</li> </ul>
		⑦安定的な志願者の確保のための大学院入試や学生募集の課題抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研究科入試委員と意見出しを行い、問題点の洗い出しを行った。</li> <li>・情報発信の問題点について意見交換を行い、各所にパンフレットを送付した。</li> </ul>
	2. 教育の質を高めるための支援と検証体制の充実	①教育の質向上に有効と考えられる教育手法を共有する機会や、改善の必要性の有無を客観的に考える機会を検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・研究科等において、FD研修会等で教育手法を共有した。</li> <li>・各学部・研究科等において、教育改善の必要性を検討した会議を実施した。</li> </ul>
		②アセスメントプランの十分な活用に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・研究科等において、アセスメントチェックリストに基づいたFD等を実施した。各回の参加率は86%～100%程度であった。</li> </ul>
		③教育の質の向上、学修成果の向上のための施設・設備の現状分析と有効活用方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教学に関するアンケート結果を検証し、操作パネルやディスプレイの改善を盛り込んだ機器更新仕様書に反映した。</li> <li>・図書館の定期的な巡回等により利用目的に沿った適正利用を促した。</li> <li>・過去数年度分のLMS（Moodle, Google Classroom）利用状況及びGLS教室の使用状況を分析した。</li> <li>・2月教職課程運営委員会において、教職課程学習・演習室の備品・設備を充実させる重要・必要性について確認した。</li> </ul>

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
I 教育	2. 教育の質を高めるための支援と検証体制の充実	④教員活動評価の検討とも連動させながら、表彰（インセンティブ）の仕組みを検討  ⑤SA・TA制度の本格的な運用開始と検証、及び拡充のための人的・予算的措置の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署・教育組織において検討や情報共有等を実施しているが、具体的な策定には至っていない。</li> <li>・前期の授業アンケート分析の結果、制度活用科目の満足度は4.58、非活用科目の満足度は4.44と、両者に大きな差は見られなかった（最高5ポイント）。しかし、自由記述において「SAの先輩がいて全体で話しやすい雰囲気だった」「SAのお手本やアドバイスがあり分かりやすかった」等、前者の高い満足度を確認できた。</li> <li>・教育に係る専門職については高等教育機構（仮称）設立準備委員会において採用人数案の報告があった。</li> </ul>
	3. エンロールメント・マネジメントの実現	①IR室のあり方について検討 ②エンロールメント・マネジメント体制構築のためのワーキンググループ設置 ③学生に関するデータ種類の把握・整理	未実施ではあるが、各部署において管理するデータ等のリスト化や種類の把握と整理を行った。
		④以下の内容について現行制度の検証 a. 学生の学習意欲の持続と向上に貢献する効果的な経済的支援制度 b. 学生のチャレンジ精神を育て、その努力を公正に評価し、さらなる意欲につなげるための表彰制度 c. 学生の課外活動の活性化と活動成果のさらなる発展を目的とした、経済的・組織的支援制度 ⑤表彰制度の基準の確定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署・研究科において現行制度の検証や情報収集等に基づき改善を行った。TOEICの受検資格の改善、国際交流スカラシップ奨学金規程の改正、外国語資格試験受験料の補助回数を1回から2回に増加、さらに対象資格の見直しをした。</li> <li>・各部署において、検証に基づいて制度の見直しや新たな表彰制度の制定を行った。</li> <li>・過去5年間程度の各種奨学金執行率の統計を作成し、現行制度の利用状況を明確にした。</li> <li>・後援会による課外活動に対する支援について、「指導者に対する遠征費の補助という間接的な支援」を「サークルへの直接的な支援」に見直すことを決定した（2027年度施行）。また、100円朝食を通年で実施することとした。</li> </ul>

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
I 教育	3. エンrollment・マネジメントの実現	⑥同窓会や後援会と大学の連携について、現行のあり方の検証と改善策検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会が必要な卒業生データ項目の確認と活用方法について聞き取りを行うなど検討を進めている。</li> <li>・「総会」、「教育懇談会」それぞれに実施するコンテンツを見直し、全面的にリニューアルを行った。</li> <li>・保証人ポータルへの納品が無事完了し、運用開始に向けた準備を整えた。</li> </ul>
		⑦配慮学生に対する現行体制の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島修道大学障がい学生支援担当者会議において問題点の洗い出しを行った。</li> </ul>
	4. グローバル・コンピテンスの向上	①グローバル・コンピテンズについての理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署や教育組織で実施したグローバル・コンピテンズに関する研修会・ワークショップへの参加率は50%～95%程度であった。</li> </ul>
		②現在の関連カリキュラム（ワールド・ステージ・プログラム、外国語、外国文化理解、国際関係等）の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの検証に基づき、新科目設置、既存科目の運営見直し等を行った。</li> </ul>
③キャンパス内において、異文化理解力を高め、多文化共生を考える機会を充実させるための現状検証と課題抽出		<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解促進と多文化共生に関するイベント回数69回、のべ参加者数1,841名であった。</li> <li>・iCafeピア体制について、改善策の立案を行い、2026年度からの稼働をめざしている。</li> </ul>	
	④留学生を増やすため、本学、国内外、国の政策及び補助金等の現状の検証 ⑤留学生入試改革の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OCにて、留学生専用の相談ブース並びに相談コーナーを設置した。この取り組みから、地方大学において、留学生を確保する際の課題が見受けられた。また、卒業証明書類に関する提出問題、日本語能力不足、志望学部学科に対する理解度不足問題などが明らかになった。</li> <li>・留学生入試制度において、（適正かつ幅広く受け入れる）出願要件の見直しを行った。</li> </ul>	

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況	
II 研究	1. 研究活動推進の全学的な機運醸成	①各教員の研究成果を共有する定例的な機会の検討と試行	・各学部・研究科のFD推進委員会等及び研究JAMにおいて、教員の研究成果が共有された。	
		②研究活動推進により注力するための組織を構築するための方針策定及び組織再編準備	・研究活動推進のための組織構築に関する方針策定の準備作業として他大学調査等を実施した。	
		③学術論文及び根拠データへの即時オープンアクセス運用に向けた体制、仕組みの構築	未実施	
	2. 効果的な支援による個別研究の活性化	①大学全体の研究パフォーマンスを高めるため、現状の検証及び「優秀な研究者」の定義整理やインセンティブの内容の検討・方針提案	未実施	
		②研究生産性を高めることを目的とした、研究費のあり方及び研究費の執行方法の改善を行うため、現状の検証、研究費と執行手続きに関する課題の抽出及び制度案・改善方針の策定	未実施	
		③ワーキンググループの設置		
	3. 教育還元・社会還元のための研究成果の質的量的拡充	①外部資金獲得に関する方針策定 ②外部資金獲得に関するFD等の実施		・各学部・研究科において、外部資金に関するFD等を開催した。
			③研究成果発信について現状分析と意見収集	・研究成果発信プログラムを3回実施した。
		④職務発明やその知財化に関する理解を深めるセミナー等の実施 ⑤知財シーズの発掘		・学部FD等で研究活性化を図ったが、アンケートは未実施。

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
Ⅲ 社会貢献・地域貢献	1. 地域に開かれた大学（キャンパス）づくり	①他大学調査等各施設の開放のあり方と本学現状の把握 ②効果とリスクの洗い出し ③「地域に開かれたキャンパス」の方針策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学及び万博の視察を実施した。また、他大学の施設について、紀伊國屋書店よりヒアリングして調査した。</li> <li>・広島修道大学施設学外者使用規程を見直し、学外者のへの使用許可方針が8月大学評議会にて承認された。</li> <li>・グラウンド、体育館、トレーニングルーム、プールにおける現状の問題点の洗い出しを行った。</li> <li>・図書館における学外登録者数や貸出数を把握した。</li> <li>・ひろみらスタジオA・Bの使用状況の分析を行った。</li> </ul>
		④産学官ラボの準備	未実施
		⑤社会人学生、リカレント教育、産学官連携等、教育研究環境の拡大を念頭においたサテライトキャンパスの必要性についての再検討（効果的なコンテンツ検討） ⑥サテライトキャンパスの立地検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライトキャンパス設置に関するニーズ調査の結果をもとに検討中。</li> <li>・現地視察（1か所）を行った。</li> </ul>
	2. 連携の推進と魅力ある連携事業の実現	①地域の産学官組織から委員が参画する協議会を設置 ②協議会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学部に関連した産学官協議会を3回開催した。</li> </ul>

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
Ⅲ 社会貢献・地域貢献	2. 連携の推進と魅力ある連携事業の実現	③包括的連携協定を結んでいる連携協定先などと a. 現在実施している教育事業の検証 b. 研究連携の実施に向けた現状把握と検証（実績、制度、研究シーズの提供方法等） c. キャリア支援連携事業の現状把握と検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、自治体と連携して展開している「特殊講義b（ITソリューション実践）」について、連携先と2025年度の振り返りおよび2026年度に向けた意見交換と情報共有を行い、協議内容および改善点、改善策について協議報告書に記録した。</li> <li>・体験実践の実施に係る課題を整理し、2月学部教授会において、課題への対応策を含めた形で、2026年度以降の体験実践のフレームワークを確定した。</li> <li>・グローバル・プロジェクトIIの履修促進にむけて、実習時期を2026年度から夏季への変更することを11月学部教授会において確認し、必要な契約を締結した。</li> <li>・安佐南区及び廿日市市と教育研究活動に関する情報共有を行った。</li> <li>・広島県と本学との包括連携協定の締結のため、学部における連携可能領域についての情報収集を行った。その結果を踏まえ、広島県の担当部局と以降の連携方法について協議し、関連部局と共有した。また、同協定の締結を見据えて、広島県との協議を経て、2月学部教授会において、地域課題に対応した授業科目を2026年度に2科目開設することを決定した。</li> <li>・キャリア支援連携事業を2件実施した。</li> </ul>
	3. 学生の社会活動の活性化	①「地域つながるプロジェクト」を持続的な地域貢献へつなげていくために、プロジェクトが活動地域に与えた効果等調査	・地域つながるプロジェクトに関する現状の検証について、3月ひろしま未来協創センター委員会にて報告があった。
		②多様な活動を行う学生を全学的な財産として位置づけ、各活動の活性化を図るとともに、支援する有効なあり方を実現するため a. ワーキンググループの設置 b. 現状の検証 c. 学生活動の拡大や深化のための課題、事務分掌の課題の整理	未実施

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
Ⅲ 社会貢献・地域貢献	3. 学生の社会活動の活性化	③アントレプレナーシップに関する全学的な理解の醸成	・アントレプレナーシップに関する理解のための施策を2回実施した。
Ⅳ 大学運営	1. 働きやすく生産性の高い職場環境の構築	①リモートワーク、ハイブリッドワーク、フレックスタイム制度等の勤務形態導入の検討	・リモートワーク導入に関する課題を確認している。  ・事務ネットワーク無線化の試験運用中である。
		②事務システム更新時期とシステム間関係の現状把握及び調整	・各部局において、システム更新時期を明確化している。また、2024年度に実施した各部局システムの統合希望に関するアンケート結果を整理した上で、関係者への聞き取り内容を踏まえ、事務システム間連携の在り方について検証した結果報告があった。
		③すべての業務プロセスの可視化	・各部局において業務プロセスの可視化を行い、約71%可視化されている。
	2. 健全な財政基盤の維持	①他大学における予算配分の適切性確保のための仕組みの調査と本学への適応可能性の検証	・教職員待遇状況調査資料、西部地区金曜会資料により、給与等や改定状況を確認した。  ・国家公務員俸給表（人事院勧告）の活用を検討している。
		②他大学や民間企業等における事業計画と予算・決算の同期例等の調査と本学への適応可能性の検証	未実施
		③資金運用の目的と運用方針の明確化	・12月理事会でアセットオーナー・プリンシプルの受け入れ表明が承認された。  ・10月理事会で中期計画が承認後、3月理事会で修正版が承認された。

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
IV 大学運営	2. 健全な財政基盤の維持	④目標寄附収入（寄附研究費を除く）以上の寄附を継続的に得るため、過去の実績検証し、寄附種類を見直す ⑤「寄附したい」と思える寄附募集活動のあり方の検討	・過去の実績検証、寄附種類の見直しについて検討中。
		⑥入学定員・収容定員の確保の現状と見通しの検証	・全学部で入学者目標を達成した。その他に、目的指標を入学者目標数から収容定員に変更した上で、18歳人口減少シミュレーションを踏まえた入学者目標の達成見込みに関する検証を試みた。
		⑦授業料や他の諸納付金の現状の検証、授業料等変更スケジュールの確定	・2027年度からの納付金改定について、10月理事会で承認された。
	3. 個々と組織の成長につながる人材活用制度の構築	①高等教育機関の職員に期待される現代的役割について全学的な理解と共有を進め、役割を実現できるキャリアパス制度を構築のため a. 現状の検証 b. 役割理解のための体系的SDの計画と実施	・他大学のキャリアパス制度を調査した。自主研修の活用状況等を検証している。  ・2026年度職員研修の計画を策定し予算化した。
		②大学の社会貢献と各教員の能力向上に資すると同時に利益相反等を回避する教員の学外業務（兼業・副業等）の適切な取り扱いを行うための、現状検証と他大学調査	・3月大学評議会において、広島修道大学兼業ガイドラインが制定された。  ・教員の学外業務に関する主な課題を抽出した。
		③長期的視点にたった教職員人事マネジメント改革のための現状の検証と他大学調査	・教職員の年齢構成等の現状を把握した。  ・私大連委員を通じて他大学の取り組み状況を確認した。
	4. 危機に強いマネジメント体制の構築	①現行BCPの検証 ②強化が必要な施設・設備等の洗い出し	・現BCPについて、関連部局と整備項目について協議を行った。  ・強化が必要とされた施設・設備等の数を精査中である。

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
IV 大学運営	4. 危機に強いマネジメント体制の構築	③BCPに関する研修等学内周知の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部署において、BCP研修及び行動訓練等を実施した。</li> <li>防火防災訓練を1回、安否確認メール訓練を2回実施した。</li> </ul>
	5. 内部質保証の強化	①第4期認証評価実地調査対応 ②評価サイクルの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月22日～23日に第4期認証評価実地調査に対応した</li> </ul>
V 挑戦的取り組み	1. 多様な学生が集う学び舎づくり	①費用対効果を十分に考慮しながら、学生のキャンパス生活水準向上とSDGsの達成に貢献できる校舎等の立替や改築のための現状分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎等建替計画【第3期一第7期】及び第2号基本金組入計画、財政計画（2025～2034年度）を策定し、10月理事会にて承認された。</li> </ul>
		②ユニバーサルデザインの視点とリスク管理の視点からのキャンパスの現状検証（ソフト面、ハード面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインやリスク管理の観点からの現状検証に基づく問題点を抽出した。</li> </ul>
		③学生の居場所についての現状検証 ④新学部棟設計時の考慮	未実施
	2. 広島修道大学（修大ブランド）のプレゼンス向上	①私立大学等改革総合支援事業における地域社会への貢献タイプに採択されるために必要な活動・組織・規程の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題と取り組むべきことを関係部局で共有した。</li> </ul>
	②各地、各業界で活躍する卒業生との連携を深め、修大生のロールモデルとして、在学生や高校生に示し、在学生のプライド醸成、高校生にとっての価値向上のため a. 現状の検証 b. ロールモデル提示手法の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生管理システムおよびデータベース（DB）の課題を解決するため同窓会と連携をしている。</li> <li>1学部では、卒業生の就職先情報を整理し、蓄積を開始したが、情報収集から活用までのスキームを整備するまでには至らなかった。また、活躍する学生情報を蓄積するシートを整え、学部デスクネット上にリンクを配置した。さらに、卒業生の就職先情報の蓄積に着手した。</li> </ul>	

2025年度 広島修道大学 事業計画達成状況

2026年3月31日現在

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	達成状況
V 挑戦的取り組み	2. 広島修道大学（修大ブランド）のプレゼンス向上	③大学広報、オープンキャンパス、300周年事業などでのブランドビジュアルの展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合企画課の広報媒体（大学案内、広報truth、Webサイト、看板広告などに新しく作成したブランドビジュアルを使用した。）関連部局にも利用の周知を行い、様々な部局が広報物等へ使用した。</li> <li>「しゅうまる」について、式典やOCなどイベントをはじめ昼休憩のイベントにも定期定期に登場させ、学内・学外へ周知した。また、入試情報サイト、OC、入学センター公式Instagram、広告資料等にも使用した。</li> <li>本学イメージカラー・デザインを、入試情報サイト、OC、入試説明会資料、広告資料等に使用した。</li> </ul>
	3. 活動の活性化につながる教員活動評価制度の構築	①教員活動状況評価制度の見直し案と教員活動データシステムの更新スケジュールの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の主な課題を抽出した。</li> <li>教員評価に関する見直し議論の開始が大学評議会（2026年2月5日）で承認され、大学運営会議で方向性等に関する議論を行っている。</li> </ul>
	4. 長期的な教育組織（学部・学科・大学院・教員組織）再編計画の策定	①社会学科の円滑な運営と検証及び設置計画履行状況等（AC）報告への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月にAC書類の提出をした。</li> <li>評価は指摘事項（改善）であった。</li> </ul>
		②新学部設置計画の着実な遂行と設置認可申請準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月に設置認可申請書を提出した。</li> </ul>
③大学院組織再編のための計画策定と再編準備		<ul style="list-style-type: none"> <li>9月大学評議会にて今後の検討の進め方についてが承認されたが、大学院再編方針や再編委員会等の設置は未実施。</li> </ul>	